

## 「33年に一度のご開帳」 織幡花見寺の仏像

香取市の地図を広げてみると、ほぼ中央に『織幡』があります。平安後期の香取文書にも、香取神宮大禰おおね宜家の私領としてその村名

が見える旧村です。この織幡に花見寺かげんじというお寺があります。真言宗の寺院で、山号を天竺山てんじくざんといっています。かつては大きな伽藍



▲左から銅造観世音菩薩立像・銅造阿弥陀如来立像・銅造薬師如来立像・銅造十一面観世音菩薩立像

藍らんを有していたと伝わっていますが、周辺に寺後・寺小路・大門・大木戸・寺屋敷といった関連を思わせる小字名が残ることから、伝承のとおり大きなお寺であつたかもしれせん。いつのころか廃寺となり、現在はその跡地に薬師堂いちう一宇が建っているだけです。

この薬師堂には、ご本尊の薬師如来をはじめ、県指定有形文化財の仏像5体が安置されています。33年に一度ご開帳されます（前回は平成6年）。

銅造薬師如来立像（像高48・5cm）、銅造阿弥陀如来立像（像高46・3cm）、銅造観世音菩薩立像（像高33・5cm）、銅造十一面観世音菩薩立像

藍を有していたと伝わっていますが、周辺に寺後・寺小路・大門・大木戸・寺屋敷といった関連を思わせる小字名が残ることから、伝承のとおり大きなお寺であつたかもしれせん。いつのころか廃寺となり、現在はその跡地に薬師堂一宇が建っているだけです。

この薬師堂には、ご本尊の薬師如来をはじめ、県指定有形文化財の仏像5体が安置されています。33年に一度ご開帳されます（前回は平成6年）。

銅造薬師如来立像（像高48・5cm）、銅造阿弥陀如来立像（像高46・3cm）、銅造観世音菩薩立像（像高33・5cm）、銅造十一面観世音菩薩立像

藍を有していたと伝わっていますが、周辺に寺後・寺小路・大門・大木戸・寺屋敷といった関連を思わせる小字名が残ることから、伝承のとおり大きなお寺であつたかもしれせん。いつのころか廃寺となり、現在はその跡地に薬師堂一宇が建っているだけです。

この薬師堂には、ご本尊の薬師如来をはじめ、県指定有形文化財の仏像5体が安置されています。33年に一度ご開帳されます（前回は平成6年）。

銅造薬師如来立像（像高48・5cm）、銅造阿弥陀如来立像（像高46・3cm）、銅造観世音菩薩立像（像高33・5cm）、銅造十一面観世音菩薩立像

藍を有していたと伝わっていますが、周辺に寺後・寺小路・大門・大木戸・寺屋敷といった関連を思わせる小字名が残ることから、伝承のとおり大きなお寺であつたかもしれせん。いつのころか廃寺となり、現在はその跡地に薬師堂一宇が建っているだけです。

この薬師堂には、ご本尊の薬師如来をはじめ、県指定有形文化財の仏像5体が安置されています。33年に一度ご開帳されます（前回は平成6年）。

銅造薬師如来立像（像高48・5cm）、銅造阿弥陀如来立像（像高46・3cm）、銅造観世音菩薩立像（像高33・5cm）、銅造十一面観世音菩薩立像

藍を有していたと伝わっていますが、周辺に寺後・寺小路・大門・大木戸・寺屋敷といった関連を思わせる小字名が残ることから、伝承のとおり大きなお寺であつたかもしれせん。いつのころか廃寺となり、現在はその跡地に薬師堂一宇が建っているだけです。

この薬師堂には、ご本尊の薬師如来をはじめ、県指定有形文化財の仏像5体が安置されています。33年に一度ご開帳されます（前回は平成6年）。

銅造薬師如来立像（像高48・5cm）、銅造阿弥陀如来立像（像高46・3cm）、銅造観世音菩薩立像（像高33・5cm）、銅造十一面観世音菩薩立像

### 鎌倉時代の仏像

まず、4体の銅造仏ですが、いずれも鎌倉時代に流行した宋風彫刻の影響を受けており、細部の表現方法や処理の仕方、鑄造技術の面から、正統な仏師による造像と考えられます。4体とも本体は頭から像底までを一度に鑄上げた一鑄で、白毫に大きめの水晶を嵌め込んでいます。

薬師如来像は、両手首から先は別鑄で、柄を作つてはめ込んでいます。特に薬壺こを載せた左手は、明らかに他の部位と造りが異なっており、後世に変更されたものとみられます。本像は、横芝光町の隆台寺銅造阿弥陀如来立像（県指定）と酷似していることから、同じ仏師によつて鑄造されたとも考えられています。

阿弥陀如来像と観世音菩薩像は、いわゆる善光寺式阿弥陀三尊像の中尊と脇侍です。脇侍のもう一体勢至菩薩像は現存しません。善光寺式の阿弥陀如来像は、垂下した左手の人差し指と中指を伸ばし他の指を曲げる「刀印」という印相が特徴です。また脇侍観世音菩薩像は、胸前で両手を水平に重ねた梵篋ぼんけつの印を結び、八角形の独特の宝冠を載せています。宝冠には正面上に阿弥陀像、他面に聖観音の梵字を鑄出しています。

銅造十一面観世音菩薩像は、11の化仏を頭上に載せていますが、3面を失い、また1面は本体から分離しています。これら化仏と両腕は別鑄となつています。八角形の独特の宝冠を載せています。宝冠には正面上に阿弥陀像を配し、その他頭上に化仏を廻らせています。胸元には、墨で胸飾を描いています。全体的に素朴で、衣の表現が曖昧である点などから、伝統的な技法を身に付けた仏師の手によるものではないと思われます。

### ふくよかな観音像

一方、木造十一面観世音菩薩立像ですが、小柄な人の背丈ほどで、全体にふくよかな印象を受けます。頭部と胴体を一本のカヤ材で造つた一木造の木像で、頭上の

八角形の独特の宝冠を載せています。宝冠には正面上に阿弥陀像、他面に聖観音の梵字を鑄出しています。

銅造十一面観世音菩薩像は、11の化仏を頭上に載せていますが、3面を失い、また1面は本体から分離しています。これら化仏と両腕は別鑄となつています。



▲木造十一面観世音菩薩立像